

【部会・分科会活動報告】 2019年11,12月度

食品 安全 研究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 進捗無し。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 島津製MALDI用解析ソフト Saramis の微生物同定データベースの in house ライブラリー拡充を目的として、NITE/NBRC が有する SuperSpectra 作製ノウハウに関する技術講習会の開催を決定した。日時：2月28日（金）@NBRC かずさ。 分科会の開催について、NITE と協議中。MALDI を用いた真菌同定だけでなく、eMSTAT を用いたバイオマーカー探索の活用についても情報共有いただける予定。</p> <p>(3) チルド勉強会 ボツリヌス試験の実施検討について、各参加企業からの要望等をアンケート形式で取りまとめ中。</p> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会 参加企業7社による ICMSF ビデオの日本語翻訳について、10章のうち3章分が終了。YouTube への埋め込みを取り進めるとともに、別途作成予定のホームページ（作成費用を予算申請中）にも掲載していく。 今後は豊福先生（山口大学）ご協力のもと、FDA や FAO のリスクアセスメントシリーズ文書の翻訳を考えている。</p> <p>2. 2019年度 第4回部会全体会議を(株)ニチレイにて開催した。36名の参加であった。 次期部会長団（2020年1月より）が選出され、賛成多数で承認された。 勉強会は「国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会」の活動に関連し、下記の先生方にご講演いただいた。 ・ ICMSF の最新トピックスと SDGs：春日文子 先生（国立環境研究所、フューチャー・アース） 現在作成中の ICMSF Microorganisms in Foods Book 9 の概要や、その SDGs との関連性、食品安全を考える際には食糧の安定供給や地球環境における持続可能性をも考慮する（多面的な視点を持つ）ことの重要性等について、ご説明を頂いた。 ・ 食品安全行政の国際整合性について：五十君静信 先生（東京農業大学） HACCP 制度化や営業届出制度創設の食品安全における国際整合性との関連性や、それらに実効性を持たせるための施策内容、CODEX 委員会の目的の意味合い等について、ご説明を頂いた。</p>
---------------------	-----------	---

	食品リスク研究部会	<p>2019年度第4回目の部会を開催（2019年11月25日）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書作成に向け、構成、骨子、担当者、スケジュールについて審議。2020年内の完成を目指して、着手することとした。 ・また、参加企業の食品リスク評価のレベルアップのための勉強会として、山添康先生（食品安全委員シニアフェロー）をお招きし、「加齢と薬物代謝」について講演、22名参加。 ・次回、食品リスク評価のレベルアップのための勉強会として、国衛試安全情報部長・畝山智香子氏に講演を依頼、3月実施予定。
	香料研究部会	特に進捗なし
AA T P ロ ジ エ ク ト	概要	12/6 にプロジェクトの全体会議を開催し、国際 WS 等の各 WG の次年度の活動方針と計画について合意した。また、次年度会費についても説明し、理解が得られた。1社が脱退となり、参画企業は14社となった。
	2020 国際ワークショップ (WS) (ILSI Europe 協働)	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として2020/10/22~23に横浜で限定公開（AAT 関連メンバー等）にて開催する。</p> <p>【進捗】日本側の Overall Chair・座長・演者への説明を終了し、施設も決定した。プログラム委員会およびプロジェクトの全体会議にて WS のプロジェクト内の位置づけ・目的並びに Statement の発出・骨子案を確認し、参加費用についても検討した。さらに ILSI Europe との Web 会議にて、1月中のプログラムの確定、2月からの招待状の発送、statement の発出、WS レポートの投稿、日欧の費用負担割合について同意した。アジアの各支部への再確認、プログラムの確定、招待状の準備を進めている。運営実務を担当するサブメンバーも決定し、活動を開始した。</p>
	腸管吸収ワーキンググループ (WG)	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬大山崎研の動態予測（計算）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】成果を日本動物実験代替法学会（11/20-22、シンポジウム）および日本薬物動態学会（12/9-12、ポスター by 山崎研）にて発表した。</p>
	データベースワーキンググループ (WG)	<p>【概要】毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】データを収集する際に使用するインプットフォーマットについて、今後の汎用性を鑑み、HESS-DB フォーマットを使用することに決定した。作業工数の把握を目的に当該フォーマットを用いて1物質について登録作業を開始。</p> <p>データを収集する食品成分について、AI-SHIPS のケミカルスペースを元に一般化学物質と比較して食品成分の存在比率の高い区画に分類された食品成分から選定することを決定し、それら区画からの成分の選択について継続検討中。</p>
	定期会議	次回の全体会議は3/5（木）を予定。
	バイオテクノロジー研究会	<p>1. ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS — 遺伝子組換え食品 表示制度の動向と検査法の品質管理 を 2019年11月23日 に開催。</p>

	<p>会場：アイビーホール (IVY HALL) 3階「ナルド」 参加者：産官学計 115 名 プログラム</p> <p><u>Session I</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Michael Sussman (USDA-AMS, ISO/TC34/SC16 委員会マネージャー) <i>“Bioengineered Food Disclosure 101”</i> ・ Raymond Shillito (BASF Corporation, ISO/TC34/SC16 議長) <i>“SC16 activities, and GM testing in supply chain & its quality control in US”</i> ・ 蓮見由香 (消費者庁食品表示規格課) <i>“遺伝子組換え表示制度について”</i> <p><u>Session II</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近藤一成 (国立医薬品食品衛生研究所) <i>“日本における遺伝子組換え食品検査法”</i> ・ 橘田和美 (農研機構 食品研究部門) <i>“GM 検査における標準物質”</i> <p><u>Session III</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Marco Mazzara (EC Joint Research Centre) <i>“GM Testing harmonization in EU”</i> ・ Lutz Grohmann (BVL, CEN/TC275/WG11 座長) <i>“Official GM Testing & its quality control in an EU member state (Germany)”</i> <p>★一部当日資料は ILSI Japan ウェブサイトに掲載 http://www.ilsijapan.org/ILSIJapan/LEC/biotech/GMO201911.php</p> <p>2. 2019 年度 第 6 回目会議を 12 月 13 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第 47 号を 12 月発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 48 号の勉強会： <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 </p> <p>(2) 部会長会議について 11 月 7 日に開催された部会長会議について報告。</p> <p>(3) 隔離ほ場試験データトランスポートビリティについて これまでの議論の振り返り、論点整理、意見交換する良い機会であるため、現在投稿中のダイズ論文が掲載された後には WS を開催することが提案され、承認された。</p> <p>(4) 2020 年度活動計画、助成金申請について： 来年度の助成金承認見込みについて共有。正式決定され次第事務局または部会長よりメンバーに連絡。</p> <p>(5) 会計報告、その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ ERA 報告書について、450 号に達したので集約版を作成することが提案され、承認された。昨年 3 月、8 月の特別号を巻末に付録として挿入する予定。 </p>
<p>栄養健康研究会</p>	<p>栄養研究部会</p> <p>GR プロジェクト</p> <p>・ 第 8 回「栄養とエイジング」国際会議 開催後の活動として、栄養研究部会が担当した講演について、フラッシュレポート用の原稿を事務局に提出（「イルシー」誌に掲載予定）。</p> <p>12/7 農芸化学会・関東支部例会において下記タイトルで発表 「食後血糖値の予測を目的とした食品の試験管内糖化速度測定法 (GR 法) の開発」 (発表者；山崎製パン株式会社 陶山達矢)</p>

	茶類研究部会・茶情報分科会	特に進捗なし
食品機能性研究会		
健康な食事研究会	ワーキンググループ1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人 にとっての健康な食事の概念構築	・第8回「栄養とエイジング」国際会議の発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を完成させた。また、報告書を「イルシー」誌に投稿した。
	ワーキンググループ2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握	・第8回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を作成中。 ・12月6日にミーティングを実施。「イルシー」誌143号への論文投稿に向け役割分担とスケジュールの確認を行った。
	ワーキンググループ3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証	・第8回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を作成中。 ・11月8日にミーティングを実施。「イルシー」誌143号への論文投稿に向け役割分担とスケジュールの確認を行った。
	研究会全体	・第8回「栄養とエイジング」国際会議開催後の活動として、健康な食事研究会が担当した講演について、フラッシュレポート用の原稿を事務局に提出（「イルシー」誌に掲載予定）。 ・健康な食事研究会の今後の方向性について、12月3日に参加企業の主なメンバーで議論を行うと共に、12月9日の第10回全体会議で再度議論した。これまでの健康な食事研究会は、ここで一度区切りをつけ終了。今後、方向性を明確化させる予定。
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～ ・すみだテイクテン教室開催： 11月5日, 6日, 8日, 20日, 22日, 26日, 29日, 12月3日, 4日, 18日, 20日, 24日 (スポーツプラザ梅若、墨田総合体育館、すみだ女性センター) ・くばりん体操監修 (テイクテンを基本とした楽しむ体操) (制作 日本ハム株式会社) ・冊子「食とスポーツで健康寿命をのばそう！」監修 (制作 日本ハム株式会社) ・日本公衆衛生雑誌2019年11月号に原著論文として「介護予防を目的とした郵便による食習慣介入の効果：積雪・寒冷・過疎地域在住高齢者における検討」掲載 https://doi.org/10.11236/jph.66.11_681
	Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	◇ 栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業 ・Phase 2 対象工場にてベースライン調査 (150名) : 11月11～15日実施。非侵襲皮膚カロテノイド測定 (11月13～14日)。 ・ボゴール農科大学 (IPB University・現地工場との打ち合わせ (デルタマス, インドネシア) ・第15回 NJPPP 運営委員会 : 12月5日 『インドネシアでの給食提供による栄養改善プロジェクト Phase 2』報告。/ミャンマーにおける「職場の栄養改善」のプロジェクト (ティラワ工業団地で日系企業向けに給食ビジネスを展開しているワールド産業との共同事業) を提案し承認された。 (石垣記念ホール, 三会堂ビル, 東京)
	CHP 全体	日本栄養食糧学会において、5月17日に同学会と ILSI Japan 共

	催のシンポジウム開催が決定。テーマは「食品摂取の多様性と健康—行動変容実現のための革新的アプローチ」で検討中。
国際協力委員会	—第 11 回 BeSeTo 会議について「イルシー」誌への報告原稿執筆 —ILSI India より、“Food Safety and Standards Notification SL35 dated 30/10/2019: Draft of Food Safety and Standards (Safe food and healthy diets for School Children) Regulations 2019” について規制情報の共有。
情報委員会	栄養学レビュー ・28-2 号 通巻 107 号 (2020 年 2 月発刊予定) 編集会議 8/26 3 報採択⇒年末までに監修原稿受領 ⇒12/25 栄養学レビュー編集会議 ⇒1/8 OUP 承認取得 ⇒見本納入予定 2/12 ・28-3 号 通巻 108 号 (2020 年 5 月発刊予定) 編集会議 11/22 4 報採択 ⇒4 報とも翻訳者確定 (翻訳締切=1/31、監修締切=2/28) ⇒内 1 報監修原稿受領済み OUP に論文リスト未送付 ・次回編集会議 2/17 (月) 16 時～ ・その他 ◆板倉先生 編集委員として次回編集委員会より参加予定
編集部会	・「イルシー」141 号編集 ・「イルシー」142～143 号原稿依頼検討

【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第 6 回理事会が令和元年 12 月 19 日 (木) に開催された。</p> <p>I. 決議事項</p> <p>議案：</p> <p>① 2019 年度収支見込最終案 連結ベースでは、収入 80.2 百万円、支出 80.0 百万円、差引 0.3 百万円のほぼ収支均衡となる見込みで、これは予算に比し 4.0 百万円益となる見込(ただし、「栄養とエイジング」国際会議の Nutrition Reviews への投稿費用は 2020 年へ繰り越し)。 ILSI Japan はほぼ予算収支差額並みになる見込み。CHP は NJPPP の活動を活発にしたので収入が増加、ただし関連費用も増え予算収支に比し、0.5 百万円の損となる見込み。</p> <p>② 2020 年度収支予算最終案 連結ベースでは収入 71.0 百万円で大幅に減り、支出 77.6 百万円となり、差引 6.6 百万円の損失となり、前年より損失額は 6.9 百万円増加する。 2020 年度は第 8 回「栄養とエイジング」国際会議の Nutrition Reviews への投稿費用などが発生するが、それを除くと 2018 年とほぼ同じ収支になる。</p>
-----	---

	<p>①、②双方とも異議なく承認された。</p> <p>II. 承認、報告、討議事項</p> <p>1. 承認事項</p> <p>1) 理事会での事前審議、承認プロセスについて 現在、理事会で事前審議及び承認を必要とする事項が規定されていないため重要事項が理事会の承認なく実施されるガバナンス上の問題があり、事前に承認する事項案を提示し討議した。次回の理事会までに意見をいただき承認の予定。</p> <p>2) 寄付講座</p> <p>3) 理事・監事再任案 アカデミア理事7名、産業理事が1名減り6名、監事2名を再任予定。</p> <p>2. 報告、討議事項</p> <p>1) ILSI Assembly の報告 ILSI Assembly が本部理事9名を承認。</p> <p>2) 本部総会プログラム 2020年1月17日から始まるプログラム内容を日程別に説明。</p> <p>3) 2020年の理事会、総会の日程</p>
事務局	<p>12月31日付にて、花王(株)から出向の柳澤佳子氏が退職。12月31日付にて、花王(株)から出向の柳澤佳子氏が退職。</p>